

あおき
青木

じゅんご
淳悟

小説家

1979(昭和 54)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

1979(昭和 54)年 5 月 9 日、狭山市大字北入曾に青木家の二男として生まれる。1985(同 60)年、狭山市立入間野小学校に入学。幼少時から天文学に興味を持ち、天文学者になりたいと考え、イギリスの物理学者・ホーキング博士の著作や宇宙関係の本に夢中になる。そして 6 年生を迎えると、江戸川乱歩の『怪人二十面相』や那須正幹の『ズッコケ三人組』を読みふけた。1991(平成 3)年、狭山市立入間野中学校に入学。1994(同 6)年、憧れの埼玉県立所沢北高等学校に進学すると、司馬遼太郎の著作に没頭した。高校最後の三者面談でいきなり「小説家になる」と宣言し、学級担任を驚かせた。



1997(同 9)年、早稲田大学第二文学部に入学し、人気の表現・芸術系を専攻。1 年次、文学基礎演習で小説を書く課題が与えられ、文学作品を書き始めた。大学を卒業すると、様々な職業を経験しながら作家活動を続ける。何度も引っ越しを繰り返したが、現在は所沢市に在住する。そして、現代文学を代表する作家として活躍中である。

2. 主な業績

- ・ 2003(平成 15)年、『四十日と四十夜のメルヘン』で第 35 回 新潮新人賞を受賞し、作家デビュー。その時、選考委員の保坂和志氏から高く評価される。単行本に書き直すと好評を博し、さらに文庫本化に際し表現を大きく書き改めた。
- ・ 2005(同 17)年、新潮社刊行の作品集『四十日と四十夜のメルヘン』で、第 27 回野間文芸新人賞を受賞する。
- ・ 2009(同 21)年、『このあいだ東京でね』で第 22 回三島由紀夫賞の候補となる。
- ・ 2012(同 24)年、『私のいない高校』で第 25 回三島由紀夫賞を受賞する。『いい子は家で』『このあいだ東京でね』『私のいない高校』『男一代之改革』『匿名芸術家』や、「プロ野 Q さつじん事件」「憧れの世界」などの作品がある。



3. 特筆

青木氏は西武新宿線沿線の東京都杉並区下井草や狭山市を舞台にした小説を多く執筆し、独特な執筆手法を取り入れ、独自の空間を描いている。そして、2014(平成 26)年 9 月発表の『学校の近くの家』は、多くの読者に注目された。ちなみに、本作は狭山市入曾地区の、ある小学校に通う小学 5 年生の目を通して、1990 年代の狭山市近辺を舞台にして子供たちの世界を鮮やかに描写している。

〈出所〉埼玉新聞 2022(令和 4)年 10 月 27 日付

狭山市文化団体連合会「狭山の文化人を知ろう」プロジェクト

文責・権田 恒夫 2024. 2